

令和 2 (2020)年度  
当 初 予 算 案  
(補足説明資料)

足 利 市

## 令和2年度一般会計予算のポイント

### ―市制100周年を機に、その先の100年を見据えた積極型予算―

#### 【市長発言趣旨】

本市は、来年1月、市制100周年を迎えます。この記念すべき年にあたり、先人たちが築いた歴史と文化、伝統を礎に、このまちの次の100年を展望しました。まちの未来をしっかりと見据えて、限りある財源を最大限に活かしながら、新しい時代に向けた最初の一步を着実に踏み出す。私は、令和2年度の予算編成にあたり、まちの未来に向けた5つの大きな柱を指針にすることとしました。

まちの未来に思いを馳せるとき、そこには、次代を担う子どもたちの元気な声が欠かせません。そのためには、「安心して子供を産み育てる環境づくり」と、「日本最古の学校のあるまちにふさわしい教育環境づくり」を強力に進める必要があります。

そこで、新年度予算の大きな柱の一つ目として、足利市総合計画戦略プログラム事業の筆頭となっている「結婚・子育て・学びあい」プロジェクトです。数多くの新規事業を盛り込み、本年度比23.8%増の14億2千万円を計上しました。

本年度は、安心して子供を産み育てる環境づくりのために、こども医療費現物給付の対象年齢を「中学3年生」まで拡大しました。これに加えて来年度からは、新生児の聴覚検査費用を助成することによって、子育て世代の不安や負担をさらに軽減します。

昨年6月に新設した「足利市こども夢基金」には、すでに3千6百万円を超える温かい寄附をいただいています。その基金の一部を、屋内こども遊び場「キッズピアあしかが」の遊具の入れ替えなどに使います。キッズピアは、6年前の開園以来、入場者数が毎年増え続け、年間20万人が訪れる人気スポットとなっています。

また、放課後児童クラブへの委託料を増額するなど、子育てしやすい環境を整えます。

足利学校のあるまちにふさわしい教育環境づくりの最たるものは、学力の向上です。

本年度は、授業の準備や子供たちと向き合う時間を増やすために、児童生徒の出欠状況や指導履歴など、手書きに頼っていた書類作成の手間を大幅に減らせるよう、800台の教職員用パソコンをつなげて統合型校務支援システムを導入したところです。

加えて来年度は、多くの新規事業を計上しました。足利市独自の学力確認テスト かなふり松チャレンジを全小中学校で実施します。理解が不十分な点を的確に把握し、そこを補充していくことで学力アップにつなげます。実施時期については、すでに実施している全国学力テストなどのはざまに入れることにより、学習内容が身につけているかの確認を切れ目なく行っていきます。

また、放課後の学校内において宿題や予習復習ができる放課後子ども教室の取組み、スポーツ・芸術文化など第一線で活躍する方が特別授業をすることによって、子どもたちに夢を持つことの素晴らしさを伝える子どもの夢づくり事業を実施します。

そのほか、年々増加する外国人児童生徒の対応について、現場では言葉の壁によって多大な労力を割いていることから、日本語指導が必要な児童生徒が在籍する学校への携帯型通訳機の配備と有償ボランティアによる巡回訪問指導を始めます。さらには、全小中学校へのタブレット導入を見据えたインターネット回線の整備費用も計上しました。

また、足利地域の教育力のシンボルともなる県立足利高校・足利女子高校 統合新校にかかわる市民会館敷地の調査費用を予算化しました。小中学生の学力の向上はもちろん、未来を見据えて、まち全体の教育レベルの向上に力を注ぐ決意です。

2つ目の柱は、次の100年に向け、「みんなが住みたいまち」であり続けるための「まちの魅

力発信」プロジェクトです。本年度比10.7%増の8億6千万円を計上しました。

昨年度は、これまで継続してきたシティプロモーションの効果などもあり、観光客入込数が過去最高の500万人となりました。

来年度予算には、本市西部地域に北関東自動車道スマートインターチェンジを新設誘致するための調査費用を本格的に計上し、更なる人の呼び込みと市民の利便性向上を目指します。

スマートインターチェンジは、高速道路利用時の利便性向上だけでなく、県道をはじめとした周辺アクセス道路の整備を伴うため、地域の日常生活も便利になるほか、災害に強いまちづくりに寄与します。また、インター周辺開発による経済活性効果も期待でき、大きな将来性を持つ未来への投資です。国や県とたいへん円滑な関係にある今だからこそ、市の負担を抑えて実現できる大きなチャンスだと捉えています。

昨年4月、まちに人を呼び込む総合インフォメーションセンターとして、JR足利駅構内に、移住・定住相談センターAidaccoをオープンしました。そこに今年4月から、県が行っている結婚支援センターの機能をプラスし、出会いの場を提供していきます。

そのほか、本市に興味を持つ芸術家たちに、空き家に仮住まいしてもらいながら創作活動を行うお試し移住の家事業、定住人口の増加を目指した春日市営住宅跡地整備、各種観光誘客事業、オリンピック・パラリンピック関連事業のほか、まちづくりの基本となる区画整理事業、足利学校をはじめとした本市ならではの歴史と文化、伝統を継承する事業を推進します。

なお、市制100周年の事業経費については、今回、事務経費のみを計上しました。100周年記念事業の選定は、来年度初めに開催予定の市民を含めた実行委員会で行い、必要に応じて補正予算などで対応したいと考えています。

三つ目の柱には、老朽化した施設を次の世代に適切に引き継ぐための「公共施設の最適化」プロジェクトをすえ、本年度比93.9%増の13億2千万円を配分しました。

昨年3月、新足利市医師会館の竣工に伴い、その施設の一部を借用し、市の保健センターを移転、そして、老朽化した旧保健センターの建物は、起債を活用して解体しました。

また、上下水道部についても、県との連携のリーディングケースとして、昨年10月から県足利庁舎の一部を借用し業務を行っています。建築後60年を超えた旧水道庁舎は、現在解体中でありま。

こうした先進的な手法によって、市民の利便性確保と公共施設の削減を進めるとともに、来年度については、安全安心のかなめとなる消防本部庁舎、市民生活に直結した南部クリーンセンター、斎場など、必要不可欠な施設を計画的に更新するための経費を計上しました。

また、新市民会館整備に関する調査をはじめ、令和4年度のいちご一会とちぎ国体や全国障害者スポーツ大会に備え、総合運動場、硬式野球場、軟式野球場、市民体育館の改修を、さらには、西部複合施設、北中学校セミナーハウスの施設整備、民間プール等5か所を活用した小中学校7校の水泳授業の拡大実施などを予算化しました。

四つ目の柱は、まちが繁栄し続ける土台となるための「産業力の強化」として、商工業、農業の振興に尽力します。

あがた駅南産業団地の即刻完売を受け、間髪入れずにあがた駅北側の産業団地開発を推進するとともに、工場用地の情報収集を行って企業進出をサポートする産業用地バンク事業、効率的な農業経営のための南部土地改良事業などを進めます。

さらに、農業用施設の整備に対する市独自の費用助成制度や農業災害共済への加入促進補助、子育て期女性への就労支援策として「あしかがおしごと研究所実証事業」などを新たに行います。

五つ目の柱は、自然災害に対する「防災・減災」について、市民とともにできる限りの備えをしていくことです。市民の生命と財産を守ることは、行政にとって最も大切な使命です。

昨年10月、全国に甚大な被害をもたらした台風19号は、本市においても、降り始めからの

雨量が観測史上最大となる260ミリを記録し、家屋や工場の浸水、田畑や農業施設への土砂の流入、自動車の水没、公共施設の損壊など、昭和22年のカスリーン台風以来となる大きな被害をもたらしました。

私自身、被災した地域へ繰り返し足を運び、その惨状を目の当たりにし、心痛の極みでありました。被災直後から市議会をはじめ、民間団体、市内外からのボランティアによる支援活動が行われるとともに、市長である私が先頭に立って生活再建や復旧復興へ向けた各種支援策に取り組んできましたが、それは、いまなお続いている状況です。

来年度予算には、ハザードマップの改訂、災害情報を迅速、的確に把握する新システムの導入、市ホームページへのアクセスの増強、水に強い防災広報車両の導入、水門の操作状況を知らせる設備の設置、自治会等との連絡体制の再構築、避難所備品の充実などの新規事業のほか、河川の堆積土砂の除去工事や排水ポンプの更新予算を増額しました。さらには被災住宅再建等利子補給や住宅耐震建替補助をスタートすることなどにより、本年度比112.1%増の5億1千万円を計上しました。

防災、減災については、市が単独で取り組めることは速やかに行うこととし、特に、今回出水した地域における暫定版のハザードマップについては、地域の皆様との情報交換、連携を密にしながら、今年度の出水期前までに作成します。また、時間を要する一級河川の整備などについては、その管理者である国や県との連携、協議を積極的に続けていくという2段構えで対応してまいります。とりわけ、中心市街地の重要水防箇所である中橋の架け替えについて、全力で取り組みます。

そのほか、競馬場跡地に渋谷スクランブル交差点オープンセットの誘致に成功した「映像のまち構想」や、健幸づくり戦略をより強化した「スマートウェルネスシティ」についても、着実に推進していきます。

また、環境とコストを両立させたエスコ事業による道路と公園の照明のLED化、高齢世帯の安全安心のための特殊詐欺対策電話機の購入補助、最新技術の導入により業務効率化を図るRPA実証事業などの新規事業も加えました。

来年度の歳入は、被災した市内企業の法人市民税収入の減少など、依然として厳しさが見込まれています。

しかしながら、本市が目指す「元気で輝くまち」であるためには、現状維持でよいという考え方はなじみません。常に、まちを変えていこうという意識と、チャレンジしていく姿勢を持つことが大切です。

県内35年ぶりとなるJR新駅の誘致、計画からわずか2年で実施決定されたあがた駅南産業団地の造成、数十年来の懸案事項であった公設市場の民営化、休眠状態だった旧日赤病院の大学キャンパスへのリノベーション、社会福祉法人の協力を得て他市に先駆けて開設した子ども屋内遊び場キッズピア、totoからの補助金と大学との連携で実現した人工芝サッカー場あしスタの開設など、常に新たなことにチャレンジしていく姿勢で取り組んできました。

来年度の予算編成においても、知恵を絞って精力的に事業の見直しを進めた結果、厳しい財政状況の中ですが、新たに52項目もの新規事業を予算化することができました。

次の100年に向けた令和2年度一般会計当初予算は、大きな5つの柱を中心とした、メリハリのある積極予算としました。金額は、過去2番目の規模となり、本年度に対して1.7%、9億円増の538億円としました。

また、特別会計については、介護保険特別会計保険事業勘定から、下水道事業会計までの予算総額を、本年度に対し3.3%増の438億1,400万円としています。

私は、これらの予算案について議会の承認をいただき、足利市を元気に、さらに輝き続けるまちにしていくため、全身全霊を傾け、市民・市議会とともに全力投球していく所存であります。

—市制 100 周年を機に、次の 100 年に向けた 5 つの柱に重点配分—  
「子育て・教育環境の向上」「まちの魅力発信」「公共施設の最適化」  
「産業力の強化」「防災・減災」

(主な新規事業など)

事業名	事業費 (単位千円)	事業の概要
【子育て・教育】 <u>新生児聴覚検査助成事業</u>	4,500	すべての新生児が聴覚検査を受けられるように、母子手帳と併せて受診券(上限 5,000 円)を交付するもの。
【子育て・教育】 屋内子ども遊び場改修費等補助事業	15,000	屋内子ども遊び場「キッズピアあしかが」のリニューアルに対し改修費の補助をするもの。 補助金 15,000 千円のうち、7,500 千円は「こども夢基金」を活用。
【子育て・教育】 <u>「かなふり松チャレンジ」ほか学力向上と指導力強化支援のための事業の拡充</u>	12,137	小中学校の教育環境の整備や学ぶ意欲を高める施策を幅広く盛り込み、学力向上と指導力強化を図るもの。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・かなふり松チャレンジの実施 6,850</li> <li>・携帯型通訳機の配備 1,181</li> <li>・学力向上コーディネーターによる 学校訪問の拡充 1,549</li> <li>・教育先進地視察等 216</li> <li>・外国人児童生徒に対する 有償ボランティア巡回訪問指導 912</li> <li>・放課後子ども教室 400</li> <li>・子どもの夢づくり事業 1,029</li> </ul>
【まちの魅力創出】 <u>スマートインター関連</u>	30,000	北関東自動車道に、新たにスマートインターチェンジを建設するための調査費。建設候補地は、足利市山下町付近。 ※現在、国や NEXCO 東日本と協議中であり、建設は確定ではありません。
【まちの魅力創出】 まちなか賑わい創出	1,035	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【新規】お試し移住の家事業 市内の古民家等に、短期間の仮住まいをしてもらうことで、足利市へ理解を深めてもらい、移住定住を促進するもの。</li> <li>・ART あしかが実行委員会交付金</li> </ul>

事業名	事業費 (単位千円)	事業の概要
【まちの魅力創出】 市制 100 周年準備等	2,518	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリエイティブディレクター佐倉康彦氏のプランニングにより、市制 100 周年を契機としたシティプロモーション事業を進めるもの。各種、デザインや動画等を作成し、市内外にPRを図る。</li> <li>・実行委員会等の事務費</li> </ul>
【まちの魅力創出】 移住定住促進	77,405	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住定住促進事業（あしかが移住・定住相談センター・結婚支援センター運営費、サテライトオフィス誘致調査、リーフレット作成等） 18,664</li> <li>・地域おこし協力隊事業 14,787</li> <li>・まちなか賑わい創出事業(醸) 1,035</li> <li>・空き家対策推進事業 23,954</li> <li>・住宅耐震建替補助金 20,000</li> </ul>
【まちの魅力創出】 オリンピック・パラリンピック関連経費	4,750	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック関連では、出場国の事前キャンプ地に決定された際、キャンプを支援するための経費を計上</li> <li>・パラリンピック関連では、「パラリンピックの火」を市内で採火し、栃木県庁まで届けるためのイベント経費を計上</li> </ul>
【公共施設の最適化】 <u>とちぎ国体・とちぎ大会に向けた施設改修事業</u>	349,834	<p>いちご一会とちぎ国体、とちぎ大会の開催に向けた競技会場となる施設の改修工事を実施するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○総合運動場改修事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・園路改修工事 49,800</li> <li>・駐車場整備工事 64,000</li> <li>・ウォーキングコース改修工事 73,200</li> </ul> </li> <li>○硬式野球場改修事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブルペンフェンスの改修工事 14,454</li> <li>・空調設備の改修工事 6,270</li> </ul> </li> <li>○軟式野球場改修事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンドの全面改修工事 76,000</li> <li>・フェンス等の改修工事 18,269</li> </ul> </li> <li>○市民体育館改修事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ改修工事 47,841</li> </ul> </li> </ul>

事業名	事業費 (単位千円)	事業の概要
<p>【公共施設の最適化】 公共施設の改修工事</p>	11,079	<p>公共施設の改修工事を実施し、利便性向上を図るもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西部複合施設内駐車場の舗装工事 6,000</li> <li>○北中学校セミナーハウスの改修工事</li> <li>・宿泊室へのエアコン設置工事 2,552</li> <li>・浴室給湯器の更新工事 2,360</li> <li>・備品整備 167</li> </ul>
<p>【公共施設の最適化】 新市民会館整備調査</p>	3,300	<p>新市民会館の建設候補地の検討をさらに進めるための調査費</p>
<p>【公共施設の最適化】 ごみ処理施設等建設事業費</p>	211,257	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新クリーンセンターの建設は、DBO方式で行うため、R2年度から事業者選定を進めるための業務委託を開始する。</li> <li>・前年度に引き続き、建設予定地の用地取得等を進める。</li> <li>・R8年度の完成を目指し、事業を進める。</li> </ul>
<p>【公共施設の最適化】 <u>消防本部庁舎等建設事業</u></p>	1,082,815	<p>本市防災の要である消防本部庁舎(昭和44年(1969)建築)を建て替えるもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庁舎等建設工事(施工期間R1~2) 1,031,400</li> <li>・附帯設備費 15,887</li> <li>・備品購入費 35,528</li> </ul>
<p>【公共施設の最適化】 小学校民間プール等活用事業</p>	7,286	<p>小中学校プールの老朽化に伴い、民間プール・市営プールを活用し、安定した水泳授業の確保と学校プールの維持管理経費の軽減を図るもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山前小→スポーツクラブ山前</li> <li>・大月小・名草小→野間スポーツクラブ</li> <li>・梁田小→フレッシュワンスイミングクラブ</li> <li>・三重小→アンタレススイミングスクール</li> <li>・けやき小・二中→市民プール</li> </ul>

事業名	事業費 (単位千円)	事業の概要
【産業力の強化】 (子育て期の女性就労支援) あしかがおしごと研究所実証事業	2,000	子育て期の女性の「働きたい」ニーズや人手不足にある企業のニーズを掘り起こし、マッチングに結び付けることで、潜在労働力不足活用と人材不足解消を図るもの。
【産業力の強化】 (農業者への振興策) <u>次世代農業強化支援事業</u>	9,000	農業用施設や機械等の取得に係る費用の一部を補助し、担い手の経営力強化と新規就農者の早期の経営安定化を支援するもの。
【産業力の強化】 (農業者への振興策) 農業災害等加入促進支援事業	1,000	農業共済や収入保険の掛金の一部を補助し、農業者の災害への備えを促進するとともに、被災時の早期再建を図るもの。
【防災・減災】 <u>自然災害に対する防災・減災対策事業、生活再建・復興支援策</u>	178,185	台風19号による被災経験を生かした各種防災・減災関連事業、被災者救済支援事業を実施するもの。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水ハザードマップの更新 3,960</li> <li>・ため池ハザードマップの作成 85,800</li> <li>・地図情報システムを活用した災害情報一元管理システムの導入 2,508</li> <li>・市HPサーバーの増強 3,417</li> <li>・自治会等との連絡体制再構築と避難所の充実 1,500</li> <li>・水門操作状況を知らせる設備の設置 2,000</li> <li>・防災広報車の購入 3,000</li> <li>・河川浚渫、排水ポンプの更新 55,000</li> <li>・住宅耐震建替補助(再掲) 20,000</li> <li>・被災住宅再建利子補給 1,000</li> </ul>
【その他】 特殊詐欺対策電話機等購入費補助金	500	65歳以上の高齢者世帯に対し、特殊詐欺被害防止機能付き電話機等の購入費の一部を補助し、増加するオレオレ詐欺等の特殊詐欺被害の防止を図るもの。
【その他】 RPA実証事業	2,622	事務作業の効率化を進めるため、ソフトウェアロボットによる業務自動化の実証事業を行うもの



## 【令和2年度予算の概要】

- 前年度比9億円（1.7%）増の538億円。過去2番目の予算規模
- 五つの柱に重点的に財源配分：「子育て・教育環境の向上」「まちの魅力向上」「公共施設の最適化」「産業力の強化」「防災・減災」
- 歳入増の要因：地方消費税交付金4億円増加に加え、幼児教育無償化財源などで国県支出金9億円増の113億円を見込む
- 歳出増の要因：消防本部庁舎建設や小学校トイレ改修などにより普通建設事業費4.9億円（9.2%）増の58億円を見込む

- 主な基金（財調・減債・公共施設整備）の取崩し額は、前年と同額の16億円  
[平成令和2年度末の基金残高見込]

・ 財政調整基金	17億533万円	（R1末見込み	19億333万円）
・ 減債基金	5億4,059万円	（	” 8億6,979万円）
・ 公共施設等整備基金	51億1,300万円	（	” 55億720万円）

### ○市債発行と市債残高

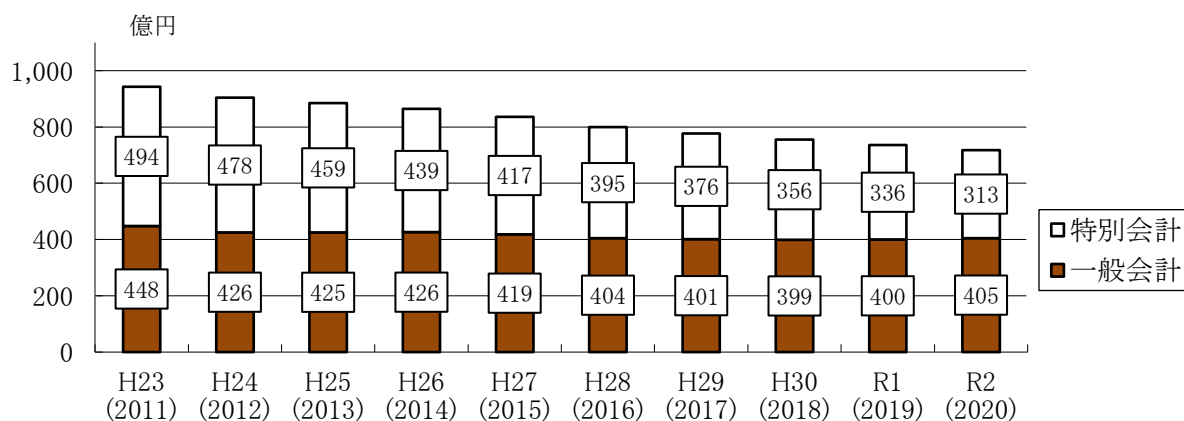
#### ・市債の発行

市債 47億7,070万円

#### ・市債残高

令和2年度末 全会計 717億7,980万円（△18億7,191万4千円）

一般会計 405億1,259万4千円（4億9,430万7千円）



**※本資料についてのお問い合わせは、総合政策部財政課までご連絡くだ**

**さい。(TEL0284-20-2106)**